

広報レポーターが気づいたまじの感カ

住よさを  
実感

## ミュージカルカンパニー「いちごハウス」



広報レポーター

橋本 千代子 (岩戸)

平成17年(2005年)の市制施行10周年記念の市民ミュージカル「ふるさと印西」に参加したメンバーたちが、今後も活動を続けたいと希望し、その翌年から発足した「いちごハウス」。当時の活動場所が赤い屋根の家だったこと、一期一会の言葉が名前の由来とのこと。

毎週日曜日・13時から、原地区のふれあい文化館多目的室で、ミュージカルに必要な練習をしているそうです。今は7月24日(日)のアトリエ公演に向け、小学生から70歳代のメンバーが活動中。参加している子どもたちに動機を聞くと「ダンスや歌に憧れ、とても楽しそうだったし、自分もやってみたいと思いついた」と話してくれました。

今回の講師はダンスカンパニー「チャイロイプリン」のスズキ拓朗さんと、小林らさん。準備運動の後、いよいよ「不思議の国のアリス」をモチーフにしたダンスの指導が始まりました。音楽に合わせて、個々にフレームを持ったり椅子を使ったりしながらのダンスやペアでのダンスなど。1回踊るとスズキさんから「惜しい。こうするともっと良くなる」と動きを見せての助言。決してメンバーの動きを否定しないので、みんな笑顔でのびやかに表現しているのが印象的。見ている私もついつい笑顔になり、やってみたくなりました。

日頃の活動は、演じる組の星組(☆)と衣装や小道具作りなどのサポートをするハート組(♡)の2つに分かれているので、「ダンスは無理だけどサポートなら」というメンバーも大歓迎とのこと。世代の違う者同士が、楽しく力を合わせて1つの作品を作っていく姿に、7月のアトリエ公演がとても楽しみになりました。

闘いちごハウス・石川(☎090-4436-3912)



椅子を使っでのダンス



準備運動で30分間のストレッチ

ミュージカルカンパニー  
「いちごハウス」



☆と♡を合わせたロゴマーク